# 「どんな時にも御霊によって祈りなさい」エペソ６：１８

堀田修一　２０・１２・６

神に敵対し、その神に従う私達に敵対する悪魔（サタン＝ヘブル語で「敵対者」）は、私達が、全能の神に祈る事もせず、忙しく活動する事を恐れないだろう。祈りのない活動は、神の為の実を結ばせることが出来ず、忙しく活動する者達の心、精神、体をすり減らすことを知っているから。しかし、私達が、自らの弱さを真に自覚し、その分、全能の神に拠り頼み祈りつつ、御心にかなう事をするなら、悪魔は、嫌がる。なぜなら、私達が、全能の神に祈る時、悪魔より強く偉大な神が働かれる。コロナ禍の中でも、受洗者、転入者が！

Ⅰ　七つ目の最後の武具。

１.「あらゆる祈り（原語：プロセウケー、祈り、祈祷、礼拝と崇敬）と願い（原語：デエーシス、願い、祈願）によって」。「願い」の前に「祈り（神との人格的な交わり）」がある意味→「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい」ピリピ４：６。「祈り」と「願い」の順序が大切。エペソ８：１８もピリピ４：６も同じ順序。まず、「祈り（プロセウケー）」は、礼拝と崇敬を表している。悪魔は、私達が真の神を礼拝する事を最も嫌う。悪魔は、自分を神の様に礼拝させようとする→イエス様への悪魔の誘惑＝「もしひれ伏して私（悪魔）を拝むなら、これをすべてあげよう」（マタイ４：９）。自分の願望を告げる前に、まず、礼拝と崇敬、神を崇める祈りをする。問題や悩みにだけ心の目が向かないように、すべてを支配しておられる神に目を向ける。「信仰の創始者であり完成者であるイエス（神）から、目を離さないでいなさい（原語のニュアンス：他のものから目を離して、イエスに目を集中しなさい、しっかり見なさいの意）」ヘブル 12:２。問題や状況に心騒ぎ、振り回されないように、まず、神の前に静まる。あせらず、間を置く。試練と自分の間に主を置く。願い事だけに終始せず、神と人格的に向き合う。自分が神の臨在される場にいる事を認め、神を崇める。次の「願い」の前に、ピリピ4:６では、「感謝をもって」が加えられている。先に願い事だけ祈る時、神に心の目が向くのではなく、願い事（問題、悩み）に心の目が向き易い。しかし、願いの前に、神を礼拝し、静まり、神の恵みを数え感謝をする時、私達の心の目が神に向く。「クリスマスの家庭礼拝のすすめ」の一年の感謝の分かち合いの恵み。今日も命がある事、主の救い、主の愛、罪の赦し、永遠の命、主がいつも共におられる恵み、祈り支えてくれる教会の兄弟姉妹、家族を感謝したい。

２．祈りの次に「願い」→神を神として礼拝し、礼拝と賛美、感謝を表した後に、神に具体的に願いを告げる事ができる。優等生ぶらないで、<u>正直に</u>願いを祈り、悩みもすべて神の前に注ぎ出そう！「神様、今辛いです」と。神は正直な祈りを喜ばれる霊的な親。
神は、私達が遠慮して祈り願わないのを寂しく思われる。神は私達に恵みを与えたいお方！

Ⅱ「どんなときにも御霊によって祈りなさい」エペソ６：１８。「どんなときにも」→嬉しい時も悲しい時も。順調な時も逆境の時、何をやっても上手く行かない時も。穏やかな時も嵐、試練の時も。楽しい時も苦しい時も。悪魔の誘惑に会う時も。毎朝、ディボーション（神との交わり）の時も、

何かを始める前、最中、後も。難しい仕事中、勉強中も、運転時も、心の中で（目は開けて）。必要なものを探し求める時も。悪魔が策略をもって神を見失わせようとする時にも、神に信頼して祈ろう。「御霊によって」→悪魔は、私達が全能の神に祈り、全能の神が働かれる事を最も嫌う。だから私達が、神に祈る事を悪魔は邪魔する。そこに霊的な戦いがある。また私たち自身にも弱さがある。自分では祈りもできないくらい弱る事がある。だから→「御霊によって」とある。ハレルヤ！悪魔より強い偉大なお方である御霊なる神は、弱さを持つ私達の祈りを助け導いて下さる。だから、「御霊に満たされなさい」５：１８が鍵。「御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、とりなしてくださるのです」ローマ８：２６。「聖霊によって祈りなさい」ユダ２０

Ⅲ「そのために、目を覚ましていて（原語：目を覚ましている、注意している、心を配っている）」。主がクリスマスに世に来られ、救いを成就され、主の御名による祈りが出来る！
１．悪魔は、クリスチャンが油断して祈らないようにさせる。「気をつけて、目を覚ましていなさい。その時がいつなのか、あなたがたは知らないからです」　マルコ１３：３３。「人の子の前に立つことができるように、いつも目を覚まして祈っていなさい」ルカ２１：３６。上手く行っているように見える時にも、必要が満たされている時にも油断せずに祈りたい。目を覚まし、注意していないと悪魔が誘惑して、「祈らなくても、結構やれる」と油断させる。いつも、しっかり自覚したい。祈り（神に拠り頼む）を失くして、私達は、神の喜ばれる事は、何一つ出来ない事を！主を信じ救われたのも多くの人の祈りのおかげ。

２．「すべての聖徒のために」。視野と関心の広いとりなしの祈り、願い。個人的に知っている聖徒、主にある兄弟姉妹の為、個人的に会った事のない人々、主にある兄弟姉妹の為に、あらゆる国の、あらゆる教派の、あらゆる境遇の、あらゆる年齢層や社会層の聖徒達を思いやり、とりなしの祈りをする。※「祈りのノート」「祈りの道しるべ」「OMF 宣教祈祷カレンダー」他を用いつつ。今も、迫害されている世界中のクリスチャンの為に祈りたい。私達も、知っている人に祈られ、会った事のない人々からも祈られている、支えられている。感謝！それゆえに、悪魔の誘惑がある中でも、ここまで支えられ守られた。感謝！すべては、神のおかげ、神が備えられた兄弟姉妹の執り成しの祈り（を通して働かれる神）の支えのおかげ。神は、私達の祈りを喜び、神の方法で答えられる。

３．「忍耐の限りを尽くして（原語：すべての根気よさで、根気の限りを尽くして）」。悪魔は、私達の根気、忍耐を邪魔して、とりなしの祈りを止めさせようとする。しかし、内住の助け主である御霊なる神に拠り頼み、忍耐、根気をいただき、あきらめず、全能の神を信頼して祈り続けよう。コロナ禍の中で、忍耐の限りをつくし終息の為に祈りたい。総理大臣が大変な医療従事者への助け、感染を拡大させない対策、経済の支えの判断力を持って一貫した指導ができるように祈りたい。※あるクリスチャンは、ある人の救いの為に祈り続けた。しかし、そのクリスチャンが生きている間には、その人は主を信じなかった。しかし、そのクリスチャンが天国に召された後、その祈られていた人は主を信じたのです。これは、大きな励まし！祈り続ける事は無駄にはならない。神の時に実を結ぶ！主は、みことばで励まされる→「いつでも祈るべきで、失望してはいけない」ルカ 18：1。